

最上位目標 「子どもの Well-being の実現」

学校教育目標 「心豊かに、自他を高め、章を成す」

～変化に向き合い、信頼される優しさを持ち、社会に貢献する～



SEISHO PRESS

Trying for your dreams

佐賀市立成章中学校

学校だより 第9号

令和8年7月17日

文責 校長 馬郡直樹

1学期終業式 開催

地味な一歩と地道な継続を

7月17日（金）に体育館において終業式を開催し、おかげさまで1学期を無事終えることができました。保護者の皆様や地域の皆様には、当校の教育についてご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。終業式では、校長から学年ごとに頑張りを賞賛するとともに、以下のこと（要約）を話しました。

1学期を振り返って、皆さん一人一人の心の中には、「やりきった」という充実感でいっぱいの人がいる一方で、もしかしたら、心の中に「悔しさ」などを抱えている人もいるかもしれない。先日行われた佐賀市中体連大会の後、ある中学校の男子部員一人が、コート壁に向かってじっと立ちすくんでおり、その背中からは悔しさが溢れていた。私も若い頃にスポーツに打ち込んでいたが、覚えているのは勝った喜びよりも、負けた悔しさやうまくいかなかった思い出ばかり。勝ち負けで涙を流すほど本気になれたこと、そして何より、同じ目標に向かって一緒に過ごした仲間との日々は、今では人生の最高の思い出である。

うまくいかなかったということは、「次のステップへ進むための、人生における貴重な経験」を手に入れたということ。本気になれた自分に誇りをもってほしい。この経験は貴重な経験として将来の自分を支えてくれる。

夏休みは、誰もがができる当たり前のことを、誰も真似できないくらい続けることが大切。「一発で大逆転の裏技」や「楽に成果がでるショートカット」は絶対ない。地味な一歩、地道な継続が大きく成長させてくれる。

一番大切なのは、「命」。あなたがそこにいてただで救われている人が周りには必ずいる。一人で抱えきれない悩みや苦しいことがあったら、信頼できる大人や友達を相談してほしい。

2学期の始業式に一回り逞しくなった皆さんと笑顔で再会すること。これが、私から皆さんに課す、この夏休みで一番の宿題である。健康に気をつけて、充実した夏休みにしてほしい。

平和集会 開催

核兵器のない世界を目指して

7月15日（水）に生徒会主催で、戦争の恐ろしさや平和の尊さを後世に繋いでいくことを目的として平和集会を開催しました。集会では、1945年8月6日に広島へ投下された原子爆弾（リトルボーイ）の概要や、広島が投下目標に選ばれた経緯が説明されました。また、被爆当時の悲惨な惨状を前に、「被災者を助けるべきか、真実を伝えるために撮影すべきか」と葛藤しながらも、強い使命感で撮影し貴重な記録を後世に残した新聞社カメラマン松重美人さんのエピソードが紹介されました。さらに、原爆がもたらした熱線、爆風、高熱火災、そして放射線や「黒い雨」による多大な被害の実態と、現在も世界に約12,000発の核弾頭が存在する現状が語られました。

最後に、「平和の誓い」が共有され、核兵器のない世界に向けて一人一人が声を上げ、行動していくことの大切さが訴えられました。

3年組 さんの感想（一部抜粋）は、「このような悲惨な出来事が日本という国で二度とおこらぬよう、私は今の大切さと尊さに感謝し、18歳以上になったら一国民として信頼のおける人間に投票し政治に進んで参加したい。」でした。

画像については、配布した学校だよりでご確認ください。

平和集会で使用されたスライド

7月全校朝会 校長の話

みんなの力で学校は変えられる！

7月7日(火)に全校朝会を今年度初めてオンラインで開催しました。校長からは、ある生徒との会話をもとに、「主体性」「当事者性」というキーワードを示しながら、「この成章中学校を世界で一番の自分たちの手で学校を変えられると実感でき誇れる学校にしていきたいと思います」と話をしました。以下概要です。

ある生徒が私に「夏は暑いので、シャツを出せるようにしてほしい」と言った。私は、「そのことを誰かに言ったことがあるの？」と尋ねたところ、ある生徒は「言ったことはありません。どうせ言っても変わらないから」と。私は、そのとき深く深く反省した。なぜなら、私は「学校の主役は生徒の君たちだ」と言い続けてきたにも関わらず、「どうせ言っても変わらない」という諦めを持たせてしまっていたから。そんな思いをさせてしまっていて、本当に申し訳ない。

この「言っても変わらない」問題は成章中だけのことではない。日本財団が、世界各国の若者を対象に行った意識調査の中の「自分の行動で、国や社会を変えられると思うか」という質問で、他国の若者のうち6割から8割近くが「変えられる」と答えていたのに対して、日本の若者は「変えられる」と答えた割合はわずか52%で、調査した国の中で最下位。また、「自分の国は、将来良くなると思うか」という質問でも、日本は断トツで一番低い数値であった。

これからの時代に必要なのは、自分の頭で考え、判断し、仲間と対話しながら、実際に行動を起こしていく力いわゆる「主体性」。学校は、ただ勉強をするだけの場所ではない。みんなで社会をつくる練習をする、いわゆる「小さな社会」である。

また、社会や学校には、守るべき大原則がある。それは「自分の自由は、他人の自由を侵害しない範囲で認められる」ということ。「充実した学びのためにこの決まりを変えたほうがいい」と、周りの仲間のためになる提案を考えること。これが「当事者意識」「当事者性」である。

「このルールはおかしい」「もっとこうすれば学校が良くなる」と本気で考えたなら、ただの「独り言」で終わらせず、その理由とその代わりとなる新しい案を持って、声を届けてほしい。夏服のリニューアルや文化発表会について生徒から意見をもらい進めているところ。

「言っても変わらない」という過去を、この成章中学校から、みんなの力でひっくり返していこう。世界で一番「自分たちの力で学校を変えられる」と実感できる、そんな誇れる学校を、一緒に作っていこう。

ひきたよしあき氏講演会開催 「コミュニケーションに強くなる言葉の力をつけよう」

7月3日(金)に全校生徒に対してひきた先生から講演をしていただきました。ひきた先生はコミュニケーションに関する本を29冊執筆されており、現在は明治大学や早稲田大学などで、また日本サッカー協会S級コーチ研修において講師として、多方面で活躍されています。

ひきた先生からは、①「よい言葉はお守りになる。よい言葉をもっていちいち悩まないことが大事」 ②「ヤバイという言葉だけで済ませようとすれば、人によっては意味が伝わらない。ヤバイに加えて他に2つの言葉を使うようにすればコミュニケーション能力がアップする」 ③「**あ**行のちから…ありがとう、いいね、うまいね、えらい、おかげさま」 ④「**す**のちから…すごい、すてき、好き、するどい、すばらしい」 ⑤「あいさつは**う**の高さで」など人生をよりよく生きるための言葉の使い方などについて教えていただきました。

画像については、配布した学校だよりでご確認ください。

ひきた先生のスライドから